佐賀新聞

発行所
佐賀新聞
佐賀市天神3丁目2番23号
電話0952-28-2121

号外

米朝首脳、史上初会談

非核化への合意焦点

拉致問題も協議へ

【シンガポール共同＝清水敬善、松本安二】トランプ米大統領と北朝鮮の金正恩（キムジョンウン）朝鮮労働党委員長は12日、シンガポール南部セントーサ島のカペラホテルで会談した。両首脳は冒頭で握手した。米朝首脳会談は史上初めて。核・ミサイル開発を推進し、国際社会の非難を浴びた北朝鮮の「完全な非核化」に関する合意が得られるかが最大の焦点だ。休戦状態にある朝鮮戦争の終結や、日本人拉致問題も議題となる。アジアの安全保障環境は新たな局面を迎えた。

会談の冒頭で写真撮影に応じる北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長（左）とトランプ米大統領＝12日、シンガポール（ＡＰ＝共同）

トランプ氏は12日早朝、ツイッターで米朝首脳会談について「過去の合意と違い、真の合意を得られるかどうか、すぐに分かる」と抱負を述べた。

両首脳は通訳を交えて2人だけで会談した後、高官らを加えた拡大協議を続け、昼食を共にしながら話し合う。トランプ氏は午後4時（日本時間同5時）に記者会見し、会談結果を説明するとみられる。

ポンペオ国務長官は11日「完全かつ検証可能で不可逆的な非核化」を求める米国の立場は不変とし、会談で「後に続く困難な作業に向けた枠組み」をつくると語った。北朝鮮が完全な非核化に応じれば、体制保証に応じる考えを重ねて示した。

トランプ氏は11日の安倍晋三首相との電話会談で、拉致問題を提起することを「100パーセント保証する」と表明しており、金正恩氏の反応にも注目が集まっている。

非核化実現まで制裁を解除しないとする米側に対し、北朝鮮は非核化の行動ごとに制裁解除などの見返りを得る「段階的措置」を求めている。北朝鮮は核・ミサイル実験の停止を表明したが、核兵器放棄の意思は明らかにしていない。

東アジア安定へ好機

【解説】トランプ米大統領と北朝鮮の金正恩（キムジョンウン）朝鮮労働党委員長による史上初の首脳会談は、米朝の歴史的な敵対関係に終止符を打ち、東アジアを平和と安定へ導く可能性を秘めている。ただ、歴代米政権は非核化交渉で北朝鮮に翻弄（ほんろう）されてきた苦い過去がある。会談を政治ショーで終わらせず「完全な非核化」を担保するには、保有核兵器の申告や核関連施設の査察受け入れなど具体的な行動が不可欠だ。

非核化の見返りとして米国は、北朝鮮に体制保証を与える用意を示している。朝鮮戦争の終結合意による平和条約の締結が想定されるが、ポンペオ国務長官は11日の記者会見で、選択肢として「在韓米軍の縮小」を明確に否定しなかった。日本を含むアジア太平洋に前方展開する米軍の態勢に影響を与える可能性も否定できない。

米朝国交正常化の機運が芽生え始める中、北朝鮮に融和的な韓国と、日本人拉致問題を抱え圧力を維持したい日本との温度差は目立つ。非核化実現まで日米韓の結束をどう維持するのかが改めて問われている。（シンガポール共同＝丹羽祐二）

詳しくはあすの朝刊で　購読のお申し込みは ☎０１２０－０８４５－３４　ウェブはｈｔｔｐ://www.saga-s.co.jp